



RUNNER

Vol.24



?
どの動物の足かわかりますか？
答えは最後のページに！

Whose foot is it?

活動の現場2

～On your side～

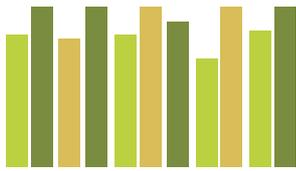
治療とケア～基本は人も動物も同じ～... 4

カモ、冬でも寒くないの？5

徒然ボランティア日記6

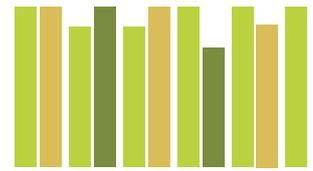
足環プロジェクト8

インフォメーション10



活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



ワールドフェスタ YOKOHAMA2015 報告

10月10日、11日の両日横浜港山下公園で開催された主に日本に在住の外国（15ヶ国）の人たちが延べ24のブースを出店して、お国自慢の食と芸能を披露する楽しい催しでした。

野生動物救護の会は丹沢大山自然再生委員会の一員として同ブースの中に展示コーナーを作り猛禽類の現状を主題にした展示をしました。

フェスタの内容が食と芸能であり、当ブースのある一角は何か異質な感じがしましたがお腹と心が満足した来場者が会場の隅にあるエリアに足を運んでなにこれ？と興味を示して立ち寄るようになり狭いブースの中は混雑しましたが、真剣に説明を聞き展示物に見入る人が多くなりました。

野生動物救護の会は来場者への呼びかけ、チラシやパンフレットの配布、グッズの販売、展示内容の説明などを積極的に行いました。また賛同された来場者からの募金も多くありました。

1日目の10日は曇りで今にも雨が降りだしそうな天気でしたが幸に雨も降らず無事一日目が終了しました。2日目は朝から雨が降っていましたが会場につくころには上がり、午後には一時太陽が顔を出すなどしていました。2日目もブースの中は混雑して説明する人も熱が入っていたようです。



厚木市環境フェスティバル 報告

10月25日に厚木市中央公園であつぎ環境フェア「あつぎから地球へ～つなげていこうエコの環～」が開催されました。地元の野菜販売やフリーマーケット、環境に関するブースや愛護団体のブースなどが出展され、お天気にも恵まれたおかげで当日は大勢の人でにぎわいました。

私たち救護の会は猛禽保護プロジェクトが始動したこともあって今年は「猛禽」です。なのでブース内は猛禽の写真パネルをメインに展示し、それ以外にも様々な救護原因で傷つく動物たちのパネルや足環プロジェクトの説明パネルや足環をつけた鳥たちのパネルを展示しました。今回のテーマが「猛禽」ということもあってチラシも新しく作成し、たくさんの来場者に配布し猛禽がなぜ傷つくのか、なぜ猛禽を守らなくてはならないのかといった説明を行いました。でもチラシやパネルよりやっぱり、チョウゲンボウのけいすけ君とコミズクのロン君の存在感がとても大きかったのではないでしょうか。皆さん、けいすけ君とロン君の姿を「初めてみた！」「お人形かと思った」など

と言って興味深く見ていましたが、どうして彼らがこんな姿になったのか、そして野生にはもう帰れないなどといった説明をスタッフから聞くと神妙な顔で「かわいそうに…」といったことを言うていただきました。

今回、彼らの姿や私たちの説明を聞いて自然環境について、傷つく野生動物について考えるきっかけになってもらえたらいいな…と思いました。



動物フェスティバル神奈川2015inはだの ～ともに生きる～ 報告

11月3日文化の日に、秦野市文化会館とその周辺を会場にして「動物フェスティバル神奈川2015inはだの～ともに生きる～」が開催され、救護の会もブースで参加しました。

当日は晴天に恵まれ、「秦野市市民の日」のお祭りが同時開催されたこともあり、終日大変多くの来場者で賑わいました。救護の会の他にも、獣医師体験や牛の乳搾り体験、犬や猫の里親募集など、動物に関する様々な団体が参加しており、とても賑やかな雰囲気の中での活動となりました。

今回はチョウゲンボウのケイスケ君と、コミミズクのロン君と一緒に参加してくれました。野生の猛禽類を至近距離で目にする事は少ないので、通りかかるたくさんの人々が興味を持ってくださり、それをきっかけに救護活動のお話をしたり、展示物を見てもらったりする事ができました。特に今回は「猛禽類保護プロジェクト」をテーマに普及啓発を行い、猛禽類が傷つく原因や、なぜ猛禽類を保護しなければならないのか、などのお話を重点的にアピールできたのではないかと思います。今回も多くのおみなさんにご協力いただき、無事にイベントを終える事ができました。

今年の大きなイベント参加はこれで最後になります。来年以降も色々なイベントで野生動物の為に活動していきたいと思っています。



～ On your side ～



治療とケア ～基本は人も動物も同じ～

ボランティア歴11年目の伊熊さんがボランティア活動をしながら
日々思う事を文章にしてみました。

私は傷病人を相手にする仕事をしている。
33年目に入ったその知識と経験をセンター
の子達に役立てられないかと思案する。

そうすると“何だ、人も動物も同じだな”
と思う事しばしばで、この仕事がこんな所で
活かせたと、その時だけは続けて来て良かった
と思うのだ。

センターの多くの子達は外傷を抱えている。
中途半端にハンデを背負った子も少なくない。
そんな時今までの経験が役に立つ場合がある。
例えば傷＝昔と違って乾燥をさせない。膿が
出ていないなら消毒もしない。健康な組織ま
でダメージを与えるからである。

傷からの浸出液は蛋白質の宝庫だ。それを
利用してスポンジ状のドレッシング剤＝保護
剤で覆い、自然に剥がれるまで待つ。

浸出液そのものが栄養供給と修復の役目を
するので早くキレイに治るんですな。口の中
を切ったり熱傷をしてもすぐに治るのは中が
水分と唾液で常に潤っているから。

昔の常識は今の非常識という場合も多い。
一例として、以前は床擦れはひたすら乾かし
ていたが一向に治癒しなかった。今の治療成
績とは比較にならない。

最新の知識と技術を吸収し頭を常に柔軟に
しておくことは大事だと思うのです。（でも、
治療法にも治療する者夫々のやり方、考え方
があり、現実には意見の食い違うことも、し
ばしばありますが）

言葉を話せぬ動物達を相手に治療をするの
は確かに大変だし見極めは人間より余程難しい。
ただ…縫ったり固定したりした子があまりに

も人を怖がってケージの中で暴れるのを見ると、
外に出してあげた方がゆっくりくつろいで安
静にしてくれるんじゃないのお…？と思
ったり、人間の場合だとうだうだがそれは動
物達も同じじゃない？などと、人間の訴えを
常に聴いている私としてはついそれを動物達
の声に置き換える癖がついてしまった。

私は獣医師ではないが、整形外科一本でこ
の仕事続けて来た。オペ室にもいた。ER
も経験している。

その積み重ねが彼らに少しでも役立ち、貢
献出来るなら嫌々ナースも捨てたモノでは
ないかも知れない。

治療とケアの充実を図り、前回のテーマに
した“On your side 動物達の立場になって”
を自分の背骨とした活動を、これからも続け
て行こうと思う。

治療とケア＝人も動物達も同じなのである。
せめて傷病舎にレントゲンの機械だけでも
あれば！



カモ、冬でも寒くないの？

冬につめたい川に浮かぶカモたちをみて、体を冷やさないかな、しもやけができないかなと心配になったことはありませんか。

しもやけができると、そろそろ冬が来たなと思う。冷え性の私は毎年11月に入ると両足の小指が赤く腫れはじめ、あわててこたつと冬服を引っ張り出してきて、冬支度をはじめ。ぶ厚い靴下をはいたり、お風呂で温めたり、こたつから出ないように気をつけたりしても（これはただの言い訳）、寒さが厳しくなるにつれてどんどんしもやけは広がって、しまいには手も真っ赤になる。この痛々しいしもやけを癒すためにも、温泉につかりたいなあと思いつつ冬を過ごす。

12月のはじめ、引っ張り出してきた厚手の洋服に身を包んで、家の近くの多摩川へカモを見に行つた。多摩川の川幅は広く、10羽ほどのカモが集まっていますが、ちょこんと小さく見える。カモたちは波に揺られながら体を休めたり、すました顔で泳いだりしてとても気持ちよさそうに見える。

本当に気持ちいいのかな、としばらく見ているうちに疑問がわいてくる。みるからに冷たそうな水に浸かっているのに、気持ちよさそうって、温泉じゃあるまいし。羽毛に身を包んでいるから温かいとしても、水に足が直に浸かっているのは、温めた体温をどんどん奪われてしまうのではないだろうか。

カモのことが心配になって調べてみると、水鳥には適応できるしかけがちゃんと備わっているようだった。

本によると、簡単にいうと水鳥たちは、一つの体に二つの体温を持っていて、体全体としての体温は四十度から四十一度と高温だけれど、足の部分の体温はそれよりもはるかに低く、常に

低温に保たれているらしい。だから水鳥たちは足の寒さを気にすることもないし、しもやけの心配もいらないのだ。

二つの体温を持てるしくみは、足と胴を繋ぐ付け根の部分に脛足根血管網（けいそくこんけっかんもう）と呼ばれる部分が備わっていて、ここで熱交換ができるおかげらしい。脛足根血管網とは、動脈と静脈が網目のように細かく組み合わされた網状組織のことだ。ここを通るときに足の先から戻ってきた冷たい血液は、近くに組み合わされている動脈の温かい血液によって温められてから体内に戻り、反対に温かかった動脈血は熱を奪われて冷え、冷たい血液となって足のほうに運ばれるのだ。

二つの体温を持つおかげで、水鳥たちは冷たい水に触れていても気持ちよさそうに浮かんでいられるし、冷たい雪の上でも雪を溶かさずに歩けるのである。

これで寒い冬に川に浮かぶカモをみかけても、安心してバードウォッチングができそうだ。



参考文献「ツルはなぜ一本足で眠るのか - 適応の動物誌 -」草思社 著者：中川志郎さん
写真：佐藤幸太郎さん

季節はあっという間に移りかわって、早くも師走ですね。保全センターに收容されている動物たちの種類もすっかり様変わりしています。そんな保全センターでのボランティアの日常の様子をユル〜ご紹介します。



2015年9月〇日(*)

9月とはいえ まだまだ暑い日が続いている今日この頃。保全センター別館(別名小鳥部屋)でのボランティアも暑い中で汗を流しながらの作業が続いております。

さていつものように小鳥たちのケージの掃除をしていると何やら受けに新たな動物が搬送されて来た模様。様子をつかがうと どうやら小さめの野鳥らしい。小さな鳥たちは搬送された直後は衰弱している事が多いので、保温箱の中に收容してしばらく安静にさせていただくのが基本。怪我をしているからと言って、すぐに治療をするとショックで死んでしまうこともあるらしいのですよ。まあ そこは獣医さんのプロの判断で処置が違ってくるので一概には言えないけどね。取りあえず すぐに收容出来るように保温箱の準備をしていると職員さんにつれられてやって来たのはイソヒヨドリイソヒヨドリの巣立ちビナ。これがまた可愛い。幼鳥らしくズングリとした体型につぶらな黒い瞳。怪我は無いようだけど、少し元気がなくボ〜としていているみたい。もしかしたら窓ガラスなどにぶつかって脳しんとうでも起こしちゃったのかな？それとも親鳥と早くはぐれてご飯が食べられなかったのかな？真相は本鳥にしかわからないのがもどかしいですな。



イソヒヨドリの雛鳥

2015年10月〇日(*)

ん？受けの方から、聞き慣れない可愛い賑やかな声が聞こえてくるではありませんか。何ごとかと思ってみると、なんと10人ほどの小さな幼稚園児たちが先生に連れられてゾロゾロとご来店。先頭の女の子が小さな箱を大事そう抱えて私の方に差し出してくれる。子どもたちが口々に「鳥が入ってるの！」「血が出てるんだよ」「落っこちてたの」などと大きな声で説明してくれるのでとても賑やかで微笑ましい。すると先生が小さな声で申し訳なさそうに「実はもう亡くなってしまっているんですが…」と。箱を開けるとヒヨドリが事切れて横たわっている。どうやら連れてくる途中で息絶えてしまったらしい。綺麗なタオルとティッシュをひいてもらって、きっと大切に保護してもらったんだね。今回は残念だったけど、子どもたちの優しい気持ちが嬉しいじゃありませんか。この子たちがこの経験を忘れずに、動物たちに対する優しい心と関心を持ったまま成長してくれたら、これ以上嬉しい事はないですね。

2015年10月△日(*)

春から夏にかけて大勢いたツバメやシジュウカラ、ヒヨドリなどの小鳥たちの数がだいぶ減ってきて、もうすっかり秋なのね、、、などと感傷に浸る間もなく、最近急激に増えたのが、ハト。キジバトとアオバト。幸せの象徴のハトさんだけど、お世話をする身から言わせてもらうと、ちょっと厄介なんですよ。彼ら。すごく神経質なものであるから近づく度にバタバタ暴れて羽を痛めたり(ものすごく羽根が抜けやすいの！)、ストレスからか餌を自分で食べなくて痩せてしまったり。そんな彼らの身体を優しくタオルで包んで強制給餌。そうそう、暴れる鳥たちを保定をする時は、翼や脚を傷つけないようにタオルを使うと便利ですよ。「強制給餌なんて私だって出来ればやりたくないんだよ。イヤなら自分で食べればいいのに」などとブツブツ言いながら今日も餌を流し込むのでした。

2015年11月◇日(☾)

今日も朝から体調の思わしくない鳥や、まだまだ子どものムササビの体重測定をして、投薬や刺し餌の必要な動物たちのお世話をし、汚れたケージを掃除して…とあくせく働いていると、突然「キ〜キキキキ〜!!!」という大絶叫が部屋の中に響き渡る。どうやら保温箱の中から聞こえてくるみたい。そっと覗いてみると小さな猛禽のツミが鋭い眼光でにらみ返してきてくではないですか。かなりイライラしている模様。時計を見るともう11時。自分で食べられる動物たちに餌を配るのを後回しにしていたらもうこんな時間。お腹が空きすぎで催促の意味の絶叫だったのね。ゴメンゴメンと餌の生肉を差し出すとすかさず餌皿に向かって脚でアタック！小さいとは言え立派な猛禽。鋭い爪と嘴を持っているから気をつけないと怪我をする。特にこんな風に苛ついていると時はね。猛禽のお世話をするときには気をつけましょう。

2015年12月★日(*)

ムササビの子ども



2週間ほどお休みしたので久しぶりのセンターボランティア。やっぱり気になるのはムササビの子どもちゃん。様子を見ようと室内のケージの中にある巣箱を開けてみたものの、

もぬけの殻。??? いったいどうしちゃったんだ？ 慌てて職員さんに聞いてみると、最近屋外の広いケージで暮らし始めたとのこと。順調に育って体力もついてきたので、そろそろ野生復帰を視野に入れて屋外の気候に慣らすために、昼だけでなく夜も外で過ごさせるようになったのだそう。今後は人間との関わりも少なくして自立して立派な野生動物として森で暮らせるように準備をしないといけない。いよいよそんな時期になったんだね。嬉しいような淋しいような。体調を確かめる目安として体重測定をしてみるとちゃんと増えている。しっかり食べている証拠。ここで大幅に減っていたりしたら、もう一度室内に戻すことになるけれど、今のところ大丈夫そう。

2週間ぶりに見たムササビ君、見るからに大きくなっていて触ると骨格や肉付きがずいぶんしっかりして遅く成長している。心なしか顔つきも大人っぽくなったみたい。お腹が空いているようなのでドングリを差し出すと、小さな手で器用に掴んでポリポリと前歯で殻を剥いている！ついこの前までは人間が殻を割ってあげないと食べられなかったのに！わずか2週間で成長したね。しっかり大人の階段を登っているムササビ君なのでした。

2015年12月▽日(*)

幸せになった仔タヌキ

今年はタヌキの赤ちゃんがたくさん保護されたけれど、皆すくすく育って無事野生に帰す事ができてホッと一安心。と思いきや、一頭だけどうしても野生復帰は出来そうにない子がいたので。明



らかに発育不全で小さく、先天的な脳の障害なのか見えない敵にガウガウしたりと行動がおかしい。野に帰す事が出来ないのなら、センターの狭いケージで一生過ごすより大切に育ててくれる家庭で暮らした方がその子のためと、同じようなタヌキの飼育経験のあるベテランボランティアのIさんの元へ引き取られて行ったのが夏の終わりのこと。そのIさんが、今日久しぶりに仔タヌキを連れて来てくれたのです。これがピクッリ！あんなに見窄らしく(失礼！)人間に慣れていなかったあの仔タヌキがフワフワの毛並みの可愛らしいチワワのようになっているではないですか！最初は噛まれたりしてご苦労されたみたいだけど、Iさんの愛情のおかげで幸せな生活を手に入れた仔タヌキくん、本当によかったね。それにしてもIさんの献身的な努力には毎回頭が下がります。



次回は冬から春にかけての保全センターでのボランティアの様子を紹介します。

足環Project!!

足環プロジェクトとは

足環を付けた放鳥個体が野外で発見もしくは再捕獲等されることでその個体の生存年数、移動範囲・距離などを知る為の活動です。詳しくは「RUNNER」vol.16 を御覧下さい。

～足環を付けて放された鳥たち～

2015年5月～9月

足環番号	種類	放鳥月	放鳥場所	保護原因
E8	カンムリカイツブリ	5月	相模原市	首の部分が裂けていた
E9	アオサギ	8月	平塚市	衝突の疑い
F5	カワウ	8月	平塚市	嘴にひびが入り、右翼に釣り針が刺さって釣り糸が絡まっていた。
F1	トビ	9月	清川村	頭部と翼に擦過傷
F6	フクロウ	9月	清川村	防鳥ネットに絡まっていた
F7	オオタカ	9月	厚木市	右翼骨折 衝突の疑い



E9 アオサギ
(写真提供:神奈川県自然環境保全センター)



F5 カワウ



F7 オオタカ(写真提供:神奈川県自然環境保全センター)

足環番号	種類	放鳥月	放鳥場所	保護原因
F9	トビ	10月	平塚市	トビ同士の衝突後、川で溺れる
F3	トビ	10月	平塚市	交通事故により左足骨折
F2	トビ	10月	真鶴町	エサがとれずに衰弱
G0	チュウサギ	10月	相模原市	衰弱
C5	ツミ	10月	伊勢原市	巣から落下
E0	ゴイサギ	10月	平塚市	左翼骨折
F4	トビ	10月	平塚市	交通事故の疑い
A1	チョウゲンボウ	10月	秦野市	嘴にひび ゴミ捨て場に箱に入れて置いて行かれた
C7	ゴイサギ	10月	厚木市	1ヶ月の訓練後、放野
D4	キンクロハジロ	10月	平塚市	再保護された後、再放野
G2	カルガモ	10月	平塚市	カラスに襲われていた
G1	ウミネコ	10月	平塚市	カラスに襲われていた 釣り糸に絡まっていた



A1 チョウゲンボウ



F3トビ



C5 ツミ(写真提供:神奈川
県自然環境保全センター)

こんな足環をつけた野鳥を見かけたら下記まで連絡してください。

NPO 法人 野生動物救護の会

Tel : 0463-75-1830 e-mail : wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp

または

神奈川県自然環境保全センター 自然保護課 Tel : 046-248-6682



鳥の詳しい情報はこちらに載せています。
(放野の光景を動画で見ることができます)

ブログ URL : <http://blog.goo.ne.jp/yaseidobutsu-kyugo>



インフォメーション

イベント

◆探鳥会 ～冬の野鳥を見に行こう！～

▽日時: 1月～3月(予定) ▽場所: 未定
☆冬鳥の観察会を予定しています。詳細は決定次第、救護の会のホームページ等でお知らせします。

◆羽根標本 勉強会

▽日時: 1月～2月 ▽場所: 自然環境保全センター
☆定期的に野鳥の羽根を使った標本作りを行っています。日程が決まり次第、救護の会のホームページ等でお知らせします。

環境教育

◆清水小学校 自然教室

▽日時: 1月 28日(木) ▽場所: 七沢自然ふれあいセンター
☆小学生を対象に、野生動物や自然環境保護の必要性などについてお話しします。

衝突調査

◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日は1月29日、2月26日、3月25日
▽場所 秦野市立図書館
☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査を一緒に行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を！

年末年始の保全センターボランティアについて

◆自然環境保全センターの冬季休業

▽休業期間 12月29日～1月3日
☆この期間、センター職員は1人体制で午前中だけの出勤になり、動物たちの世話も手薄になりがちです。お忙しい時期とは思いますが、お時間のある方、是非お手伝いをお願いいたします。(※休業期間中はセンターへの電話/FAXも不通となりますので、ご注意ください)

“救護の会 ブログ” 始まっています！

◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介！

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページ「救護の会ブログ始めました！」のバナーをクリックしてご覧下さい♪
アドレスはコチラ → <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>



* 詳細は当会ホームページをご覧ください *

表紙の答え



☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。

私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

★一般会員: どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000 円)

★学生会員: 学生の方(年会費 1,000 円)

★賛助会員: 当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費: 法人一口 5,000 円 個人一口 3,000 円

一口以上

【振込先】 ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月: 2015年12月 発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話: 0463-75-1830
〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4 ホームページ: <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>
編集者 表紙: 小林夏子(平沼亜矢子) 活動の現場: 平沼亜矢子 カモ、冬でも寒くないの?: 土井やよい
治療とケア～基本は人も動物も同じ～: 伊熊智子(平沼亜矢子) 徒然ボランティア日記: 神崎さつき
足環 Project!!: 渡辺優子 インフォメーション: 神崎さつき